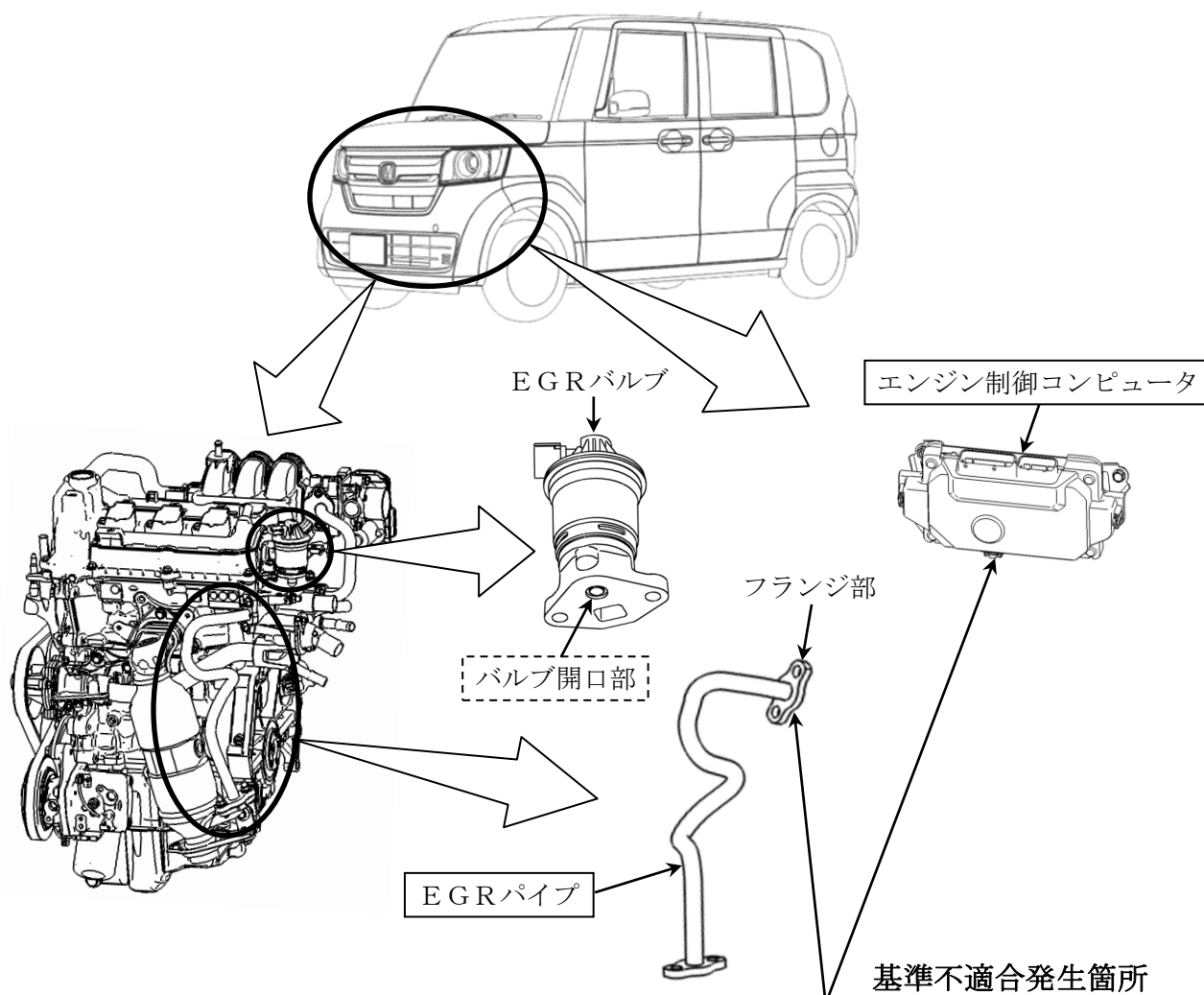


改善箇所説明図



自然吸気エンジンに搭載されている排気ガス再循環装置（EGR）において、EGRパイプフランジ部の材質及びEGRの作動制御プログラムが不適切なため、冷間時の短距離走行を繰り返すと、当該パイプフランジ部とEGRバルブ開口部周辺に凝縮水が付着し、腐食することがある。そのため、そのまま使用を続けると、腐食した破片がEGRバルブとバルブシートの上に噛み込み、最悪の場合、走行中にエンジンが停止し再始動できなくなるおそれがある。

改善の内容

- ①全車両、EGRパイプを対策品と交換し、エンジン制御コンピュータを対策プログラムへ書き換え、EGRバルブ開口部周辺の錆を取り除く。
なお、対策品の供給に時間を要することから、ご希望されるお客様には先行で対策プログラムの書き換えを行い、部品準備が整い次第、改めて案内し対策品と交換する。
- ②全車両、EGRパイプを対策品と交換し、EGRバルブ開口部周辺の錆を取り除く。
なお、対策品の供給に時間を要することから、部品準備が整い次第、改めて案内し対策品と交換する。

注： は交換又は書き換える部品を示す。

 は錆を取り除く箇所を示す。

識別：車台番号打刻の下三桁目上部に黄色ペイントを塗布する。